

II. 「市場」形式による協力・協業

A. 市場における個別経済主体の行動と情報

1. 概要

a. 個別経済主体

それぞれ独立した意思決定主体
利己的動機で行動
企業（組織）：営利目的、利潤最大化
家計：満足・効用の最大化
非営利団体：それぞれの目的の達成

b. 市場経済の前提

私有財産制度
交換・取引と契約
貨幣（取引手段）と価格

2. 市場経済と情報

a. 個別経済主体と情報

個別経済主体は不完全情報の状態
不確実性とリスク
損失・失敗の可能性
情報収集とそのコスト
損失の抑制・防止
「最適な情報収集」

b. 市場と情報

個別経済主体にとっての不完全情報 =
市場「内部」の情報伝達の不足
情報不足の結果
個別経済主体の失敗
「市場の失敗」(market failure)

図：情報と不確実性

(一部情報、不完全情報)

既 知	未 知
(情報)	(不 確 実 性)

(完全情報)

既 知

(ゼロ情報)

未 知

3. 不確実性下の個別経済主体の行動

a. 資産保有の例

M：株式：リスク高、収益高

S：現金（預金、債権）：リスク低、収益低

「リスク回避」行動の原則

リスク・プレミアム

図：資産M保有とS保有から生ずるA氏へのリターン

(単位：万円)

事象	U	D	A氏にとっての価値
確率	1/2	1/2	
M	100	100	100
S	110	90	98

b. 情報入手(有料)によるリスク回避

「情報」に対する需要価格

(情報入手に対して支払う用意がある最高価格)

図：A氏の純利益の例

(単位：万円)

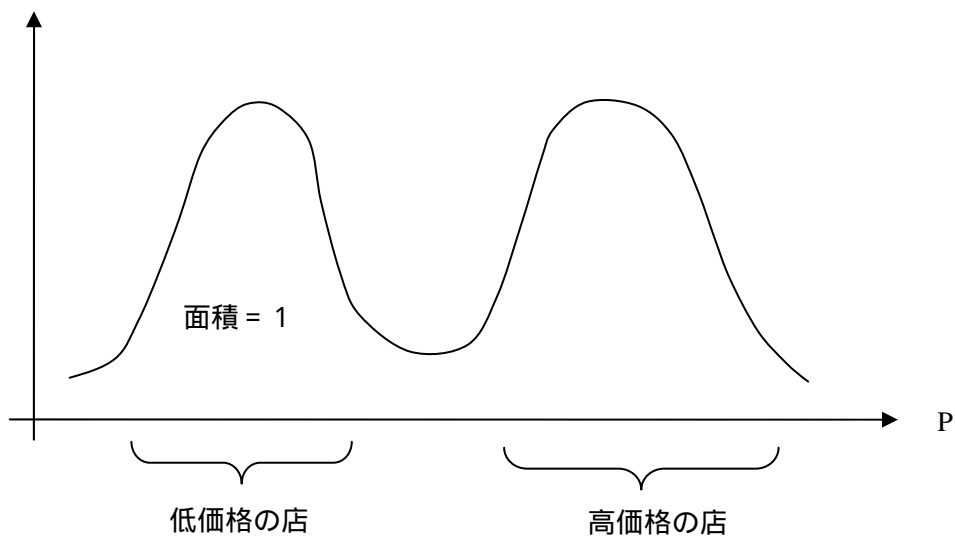
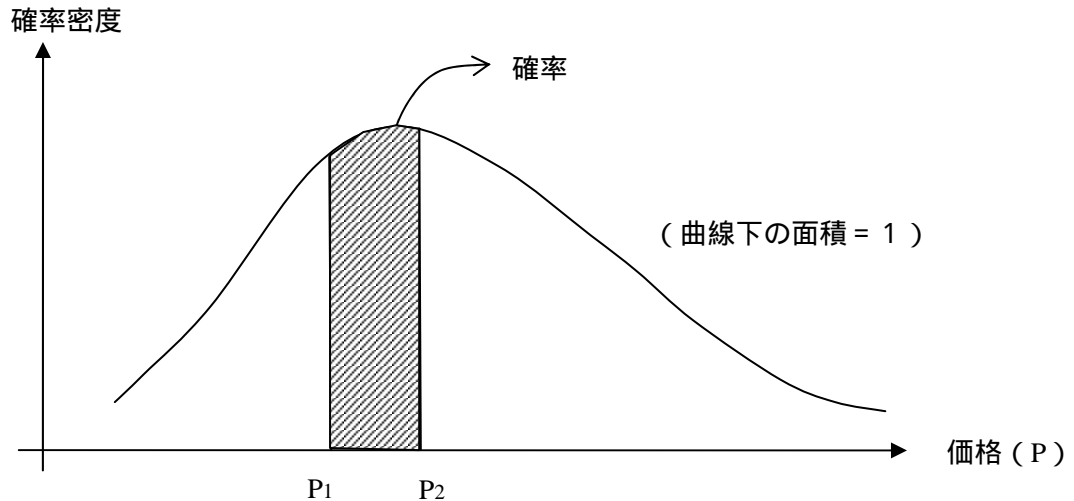
事象	U	D
確率	1/2	1/2
M	0	0
S (98)	12	-8
S (98) & I (x)	12 - x	-x

c. 「ショッピング（商品さがし、職さがし）」の例

店ごとに価格（品質考慮ずみ）が異なる

安価な店をさがしたい

価格の確率分布



事前的にはそれぞれの店での「価格」は分からない

不確実性

店を1回訪れる費用（交通費、時間、疲れ、など）

購入を早く決めすぎるリスク：

高価格の商品を掴むかも

購入を遅く決めすぎるリスク：

費用・手間がかかりすぎる（骨折損のくたびれ儲け）かも

最適なショッピング方策（？）

サーチ（探索）理論

（情報経済論 economics of information のはじまり、1961）

図：レンタカー借り手の質に関する情報が不完全な場合の需給均衡

ケース（レンタカー）		グループI （優良運転）	グループII （乱暴運転）	社会厚生評価
A	グループI、IIが 区別される （市場分離、別価格）	取引有 低価格 （規準ケース）	取引有 高価格 （規準ケース）	パレート 最適
B	グループI、IIが区 別されない （市場不分離、 同一価格）	1 取引有 （借手不満、 貸手満足）	取引有 （借手満足、 貸手不満）	パレート 非最適
		2 取引無 （双方不満）	取引有 （双方満足） [逆選択]	パレート 非最適
C	グループI、II は、Iのシグナル によって区別され る（市場不完全分 離、別価格）	取引有 高価格 （借手？、 貸手満足） [自己選択]	取引有 高価格 （双方満足）	パレート （近似） 最適 あるいは 非最適

4. 不完全情報に基づく市場の「失敗」

a. レンタカー市場の例

グループ1：有料運転借手

グループ2：乱暴運転借手

事故のリスクは「保険」でカバー

b. 他の例

中古車市場（「レモン車」 (= 不良車)）の問題

健康保険・失業保険

「逆選択」という「失敗」

労働市場

「シグナリング」と「自己選択」

図：財・サービスの質に関する不完全情報が存在する市場の例

財・サービス	グループI	グループII	シグナル・情報
レンタカー	優良運転者	乱暴運転者	運転履歴、レンタカー履歴
中古車	通常車	不良車 (Lemons)	保証書
健康保険・生命 保険対象	通常対象	高罹病率・高死亡率対象	健康診断書
労働者	労働意欲高・技能高	労働意欲低・技能低	学歴・職歴
財・サービス 一般	優良・高級品	不良・普及品	ブランド名、 コマーシャル